

ディアコニア



信頼の貸しこし・一片の信頼

牧師 佐藤 千郎

「それからイエスは、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活することになっている、と弟子たちに教え始められた。しかも、そのことをはっきりとお話になった。すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペトロを叱って言われた。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」それから、群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言われた。……（以下略）」

日本基督教団隠退教師となり、教会の牧会の現場を退いてからは、「日々の聖句」(ローズンゲン)の聖書日課に目を通し、その日の聖句に思いを巡らせながら、手元にある書物を開くことを楽しみとし

ています。

今年の受難節前第一主日(2月19日)の福音書の箇所は、冒頭に記したマルコ福音書8章31〜38節でした。

マルコ福音書8章27〜38節)は、ペトロの信仰告白も、主イエスの叱責も、群衆と弟子たちのみ言葉への招きも、「それから」と言う接続詞でつなぐことのできる「その日」の一連の出来事として記されています。そのことを通してマルコは、イエスを救い主キリストと告白しつつもなお、サタンの誘惑に負け、神のことを思わず、人間のことを思うことへと堕ちていく私たちに耐え、情け深い愛をもって私たちを信じ、恵みの業へと再びわたしたちを招き、私たちに対する希望を決して失うことのない神の愛と救しを、今も豊かに届けています。

聖書が伝える「その日」の出来事を思い浮かべながら、本棚を眺めていると、一冊の本に目が止まり、昨秋、この本を手にした時のことが思い出され、そこに記された文章が、聖書が伝える「その日」の出来事と重なりました。

ご存知のように、昨年10月、ベテスダ奉仕女母の家から「ベテスダ奉仕女母の家70年の歩み・小さき者と共に」が、出版されました。小冊子ではありますが、「母の家」の歴史を共に歩んできた方々の文章には、心に届く言葉がいくつもありませんでした。その中のひとつです。

「(前文略)〜深津が一生かけて追求したイエスの生き方。『不可能が可能になる。その根本にあるものは、ただ一片の信頼なのです。信ずべくもない時に、それを信じてやる。』その信頼の貸しこしが、この世界を生んだのです。』ということば。今回ベテスダ奉仕女母の家の70年の歩みを丹念にひもといて、最後に残ったのは、このことばです。」(同書、36ページ)

冊子の編集者の一人として、今回の出版に精力的に取り組んだ塩川成子氏が、「私たちは何を受け継いで行くのか」と題して記した結びの言葉です。

「その信頼の貸しこしが、世界を生んだのです。」は、かつて私が経験したこと、鮮明に思い出させます。

1980年代の終わり、まだバブルの時代、相次ぐ建築費の高騰により教会堂新築の資金計画が行き詰まり、牧師であつた私は、教会総会で決まっていた基本設計の見直しを迫られていました。ところが、今まで交流のなかつた信用金庫理事長H氏との出会いから事態は急転し、資金調達の目途がつき、基本設計通りの会堂を献堂することが出来ました。

詳細は省きますが、要するに、「不足の1億円は、借りても、返済のめどが立ちません。10年後でも無理です。」と言い続ける私に、初対面のH氏が「これは完成度の高い建物、町の景観にバランスの取れた教会堂になる。今、建てなさい」と言つて必要なお金を、必要に応じ、無担保、無条件で、貸してくださいだったので。その時、会計に全く無知な私に、ひとりの教会員が「貸しこし」のことを例に、H氏が教会と牧師を、どれほど信頼しているかを熱っぽく話されました。

しかし、借金を決断するまでの私は、三日三晩祈りつつ悩みました。これは、「恵み豊かな神の声か、それとも、私を

貶める悪魔の声か」と。

今から思うと、H氏の信頼に素直に応じられなかつた臆病な自分を、恥ずかしく思うのですが、他方、日ごろ口酸っぱく信頼を説く牧師が、「アメージング・グレイス（驚くべき神の恵み）」に、たじろぎ、しり込みする自分に気付く貴重な信仰体験ともなりました。

深津牧師は、聖書が伝える使徒パウロの信仰に自らを重ねつつ言われたのでしょう。「信すべくもない時に、それを信じてやる。その信頼の貸しこしが、この世界を生んだのです。」と。

そこには、いと小さき者を信頼する神への、揺るぎない信仰を読み取ることが出来ますが、見落としてならないのは、この言葉の直前の「ただ一片の信頼」です。「ただ一片の信頼」が生み出した世界に、いと小さき者に約束された豊かさの実現を、誰よりも確かに確認し、確信へと高めたのが、ベテスタ奉仕女性の家の創設者で、その半生をかいた婦人の村で、村人と共に暮らした深津文雄牧師の、

その信仰だつたのではないのでしょうか。

神に信頼されている私たちに、今、求められているのが、「ただ一片の信頼」。塩川氏の文章に、深津牧師のそんな声を私は聞きます。そして、師の説教集「底点志向者ジェシユアガ（イエス）」の言葉が思い出されます。

「我々にとつて、息を殺して、一気に突つ切らねばならぬ、今日的課題とは何か——かんがえてみてください。今の代でジェシユアに従うとは、何か？ 神に従うといつても、真理に従うといつても良い。それを求めて、ひとり折るとき、分かっているながら勇気の足りないこととはありませんか。」(85ページ)

厳しい財政事情を抱えながらも、かいた婦人の村の建てかえ事業と取り組んでいる今年の受難節に、「日々の聖句」を開き、その日の聖句に思いを巡らしていると、こんな風景や言葉が、私の頭に浮かんできます。

建て替え進捗状況

かにた婦人の村 副施設長

中村 健二郎

かにた婦人の村建て替え事業の進捗状況を報告します。前回、各自自治体に負担していただく補助金について、現在入所者を措置している15都道府県を代表して東京都が予算措置を行うこと、建て替え事業の審査書類は既に提出済みで都からの内示を待っている状況であること、しかし、実はいくつかの自治体からの同意がまだ取れていないと国から知らされたこと、などを報告しました。どの都道府県からでも利用できるということは、支援の面では他にない大きな強みでありますが、補助金に関しては、関係する自治体間の調整が難航しそうだということが懸念材料でした。この段階になってもなお、そのことが大きな壁となってしまう形です。

内示が出てからでなければ、入札↓工事請負業者の決定、というプロセスに進

むことができません。一方で、事業の規模が大きく年度を跨ぐ計画になるため、補助金交付の条件として、年度内の着工と1%分の工事完了が求められています。これ以上内示が遅れば、この条件を達成することも厳しくなってしまう。

ようやくここまで漕ぎつけた計画が実現不可能になってしまうかもしれない、そんな厳しい状況がようやく動いたのは11月も最終日になってのことでした。

以下、3月初旬までの経過を記します。

11月30日 東京都より内示の通知。年度当初の計画では10月上旬を想定していたので、この時点で約2か月の遅れ。

12月上旬 都へ補助金申請書類提出。慌ただしく入札実施準備へ。入札実施日を2月8日に設定し、2月中の契約、3月着工を目指す。

12月21日 入札公示。

1月6日 入札参加受付×切。しかし、公示期間が年末年始にかかってしまったことや、参加条件がやや厳しいことが影響したためか、参加希望業者が集まらず。

1月11日 公示方法や参加条件などを見直して再公示。入札実施日を2月15日に再設定。結果、千葉県内より3社、東京都内より1社、計4社の入札参加希望が集まる。

1月14日 地域住民説明会を開催。できれば施工業者が決定してからの開催が望ましかったが、直前まで説明がないままでは礼を欠くことにもなり、万が一理解が得られない場合の対応も難しくなるため、この時点での開催となった。大賀区

署名区より13名参加。反対意見などはとくになく、概ね好意的に受け止めていただく。施工業者決定後に改めて説明の機会を持つことを約束。



1月20日 入札参加希望業者現場説明会
4社中3社参加。

2月15日 第1回入札実施。しかし落札
予定価格との開きが大きく不成立。

2月20日 再々公示。2月27日を第2回
入札日に設定。

2月24日 第2回入札説明会。法人より
前回不成立を受けての減額案と見積もり
指示書を提示。

2月27日 第2回入札実施。落札予定価
格との差額はやや縮まったものの依然開
きがあり不成立。

3回の公示と2回の入札を実施したも
のの不成立に終わったため、2月中の施
工業者決定↓契約は不可能となる。この
結果を受け、年度内着工と1%分の工事
完了という条件を達成するためには、こ
れ以上の入札を重ねる時間的余裕はない
と判断。国と東京都に問い合わせ、現時
点で最低価格を入札している業者との随
意契約を結ぶ許可を得る。

この原稿を執筆しているのは3月8日

ですが、現時点で予定されている今後の
スケジュールも記しておきます。

3月10日 仮契約。

3月11日 定礎式。利用者、職員、法人
理事数名、施工予定業者が出席予定。

3月中旬 第2回地域住民説明会。施工
業者からの説明。

3月19日 本契約。

3月20日ごろ着工。3月中に、抜根、整
地、養生、仮囲いなどの工事を完了する
予定。

現在、大沼理事長と五十嵐施設長は、
契約のための諸々の準備に奔走していま
す。かにたの職員たちは急遽決まった定
礎式の準備に、私はこれまた急遽決まっ
た住民説明会のため、地元の方々とのス
ケジュール調整や準備に追われています。
年度末の多忙な時期に追い打ちをかける
ような非常にタイトで駆け足のスケ
ジュールではありますが、何としても着
工に漕ぎつけ、年度内に1%分の工事を
完了できるように、職員一同一丸となっ

て、準備作業を進めているところです。

クラウドファンディングへ挑戦

タイミン



グが合わず
ディアコニ
アでご案内
ができてい
なかつたの
ですが、前
述の流れと
並行して、
建て替えの
資金不足を

補うために、クラウドファンディングに
挑戦しています。

この建て替え事業の計画は2015年
からスタートしましたが、実行に移すま
でに非常に長い時間を費やしてしまいま
した。その間に、コロナ禍、ウッド
ショック、原油価格高騰、円安、ウクラ
イナ戦争など、建築コスト上昇の要因が
相次いで生じました。補助金申請のため
に具体的な資金計画を作成した時点から

も、さらに上昇し続けています。補助金の金額はもう決まっているので、コスト上昇によって不足する分は、自己資金で捻出するほかありません。

幸い、地元の銀行は、私どもの事業の社会的意義や重要性をよくご理解くださって、融資にも前向きな姿勢を示してくださっています。ある程度借入れを増やすことはできそうですし、当面の支払いができないという事態は避けられそうです。しかし返済のことを考えれば、やみくもに借り入れを増やすことは避けたいところです。つまるところ、不足分はさらに寄付金を集められるように努力するしかないという状況です。

クラウドファンディングとは、インターネット上で支援を集める仕組みです。幅広く多くの方々から支援を集めることができるので、近年、資金集めの手法として幅広い分野で活用されています。かいたのプロジェクトは、READYFOR（レディーフォー）というクラウドファンディングのサイト上で、12月20日～3月20日までの90日間で実施しています。残

念ながらこの号がお手元に届くころには終了となってしまうですが、3月13日現在、ご寄付総額が約2千240万円、1000人以上の方々からご支援が集まっています。終了までに3千500万円集めることを目標としています。

このクラウドファンディングの第一の目的は建て替えの資金集めですが、そのほかに、今まであまり知られて来なかった婦人保護事業のことや、2024年4月に施行される「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」による新しい女性自立支援への理解を広めることも、もう一つの大きな目的です。

多くの方々に興味関心をもっていたため、また、新たにかいたのことも知ってくださった方々に、よりご理解を深めていただくため、プロジェクトのページでは、かいたの生活のようすも含め、



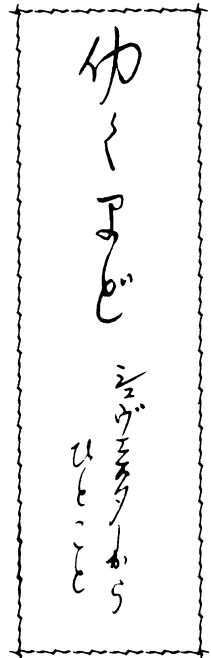
さまざまな情報を発信してきました。それによって大きな反響が起り、そこからまたご支援の輪が広がっていくことに繋がっています。

こうした発信内容や今後の建て替えの経過報告などは、プロジェクト終了後も引き続きご覧いただくことができます。インターネットをご利用の方はぜひ一度覗いてみてください。

念願の建て替え工事まで本当にあと一歩です。着工から完成まで無事に進みますように、みなさま、どうか共にお祈りください。よろしく願いいたします。



<https://readyfor.jp/projects/kanitafujinomura>
または「かいた婦人の村 レディーフォー」で検索



2023年2月20日(月)朝から冷たい雪が一日ふり続いて凍えるようでした。

外は「ろう梅」「水仙」が咲いていて、

雪がその上につもってキラキラ輝いてその

の美しさとたくましさで慰められました。

私は大分前から夜になると不安でラジオ深夜便をきいています。

殊に「クラシック音楽」「ぼやき川柳」

「明日への言葉」から多く学び人生の道しるべにしています。 細井 陽子

体調は良いですよ。

元気でいます。

皆さんも お元気で どうぞ。

桜庭 歌子

*

冬ばれの天気が続き今日も晴れてきれいな空です。相浜ガーデンに来て、もう

1か月になりますが、すっかりなれて、

ています。

目覚めて冬夜の夜更けをラヂオ聞く

模範たる何なすべきや寒きびし

木の葉散るみまかりし人多かりき

抜け落ちぬ忘れし言葉枯葉鳴る

蜜柑むく小さき幸せ覚えつつ

植木 道子

*

今回は病院の病室で書くことになってしまいました。日曜日のお昼ちかく、自

分の年も考えず、無謀にも強風の中を駅の近くまで外出。途中強風にあおられて

転倒してしまいました。さいわいにも二

たのしくくらししています。体も元気でしたのしくくらししています。もう少しなれたら近くをさんぽしたいとおもつ

小川 都代

*

人のご婦人の助けをいただけで何とか所用を果たして帰村。左ひじの出血が多量だったので、休日救急外来で手当てを受け、翌日整形外科を再受診しました。複雑骨折・開放骨折のため手術が必要となり、2月21日手術。現在(2週間ほど)入院中というわけです。かにたの仲間には大変ご迷惑をかけています。

人生の終わり近くになって、全く新たな経験を与えられていると受け止めます。と共に、助けて下さった方々、そして仲間の愛と手助けに感謝です。

天羽 道子

*

私はいつも元気よ！のんびり暮らし、出されたものは全部食べるし、なんの苦労もないのですもの！寝る時間も決まっているので健康！いう事なし！ですよ。言われたことは何でも「はい！はい！」と聞いてね。順応して生活していかなくてはね！100歳になっても大丈夫！

眞山 知恵子

別れ際、以前と変わらない力強い握手をしてくださる。(聞き取り・横田千代子)

施設だより

3年ぶりの宿泊保育

茂呂塾保育園保育士

平野花奈

昨年9月、茂呂塾保育園の5歳児クラスは3年ぶりに宿泊保育に行きました。

例年、山梨県の清里へ2泊3日の宿泊保育に行っていました。新型コロナウイルスの流行により2年間行くことができなかったのですが、職員間で何度も話し合いを重ね、今年度は2泊3日の宿泊保育を決定しました。

3年ぶりということで、子どもたちには宿泊保育のイメージがほとんどありません。そのため、室内に虫や植物の写真を貼ったり、園長先生が以前清里に行った際に撮影した映像を子どもたちと観たりして、少しずつ清里のイメージを持つところから始めました。

集合の仕方や現地での過ごし方も、もう一度考え直しました。例年は保育園から出発し、子どもたちと保育者で清里まで向かっていましたが、コロナで外出禁

験が少ない上、電車に乗っての園外保育も中止していたため、駅や電車内での過ごし方などにも慣れていないことから、今回は新宿駅に集合し、そこから子どもたちと保育者で特急に乗って清里まで向かうことにしました。

宿泊保育に向けての準備が進んでいく中、子どもたちから「ぼくは留守番する。パパとママと離れたくないもん」「ぬいぐるみがないと寝られないんだけど大丈夫かな」という声もあり、保護者と離れて過ごすことに不安な様子がかがえました。そのため今回の宿泊保育では、活動を詰め込みすぎず、自然に囲まれた中で子どもたちが安定して、穏やかに過ごすことができるよう配慮しました。

いよいよ出発の日。保護者の方に「いつてらっしやい！」と見送られ、特急に乗ります。川が見えると「もう清里着いたかな？」とワクワクしながら窓から見える景色を楽しんでおやつを食べ、友達と隣同士で会話を楽しながら清里まで向かいます。清里に着いて昼食を取っ

た後は、レンジャーさんと一緒に森の探検に行きました。鳥のさえずりや川のせせらぎが心地よく聞こえます。子どもたちはキヤーキヤー言いながら、川遊びを楽しんでいました。「靴が浸水した！」。

いつのまにか長靴の中に水が入り込み、ジャブジャブと音をさせながら歩く子、大きな石を積み重ねてダムを作る子、持つてきた水筒を川の中に入れて冷やしてみる子、木の実を集めておままごとする子…それぞれの楽しみ方で自然に触れる姿がありました。

また、野原ではトンボやバッタを捕まえたり、四つ葉のクローバーや花を見つけたりして遊びました。

2日目。子どもたちが楽しみにしていたソフトクリームを食べに向かいます。

その道中、ジャージー牛が散歩から戻る所に遭遇しました。「牛さんだ！」と子どもたちも大興奮。偶然の出来事でしたが、間近で牛の大群を見ることができました。

その後はふれあいセンターで、キツネやクマ、リスなどのほく製を観察したり、動物の足跡のスタンプリーを楽しんだ

りして、様々な展示物を見学しました。

また、夜の森にも探検に行きました。レンジャーさんの案内で1日目には通れなかった場所へ連れて行ってもらい、森を進みます。

懐中電灯を消すと前に進むことが難しいくらいの暗闇に怖がる子どもたちもいました。昼とは全く印象が違ふ森の様子を楽しみました。少し開けた場所に到着すると、そこで一人一人シートを敷いて寝転ぶことになりました。風の音が静かに聞こえ、ひんやりした空気はつきりと感じられます。

自然の中に私たちがお邪魔しているような、そんな気持ちになりました。そこでレンジャーさんが絵本の読み聞かせしてくれました。暗くていつものとは違う環境からか、子どもたちも自然と静かに、耳を澄ませて聞いています。行きはあんなに怖がっていた子どもたち



ですが、帰る頃には「楽しかった!」「怖かったけど行って良かった」と満足そうな表情で、とても貴重な経験をさせていだいたと感じます。

3日目。公園に行き、遊具で遊んだり、

虫探しをしたり、「ママに見せるんだ」と、クローバーやお花を使ったりしおりを作ったりしました。帰りの電車はクタクタでみんな夢の中…。駅に到着し、保護者の方の顔が見えると泣き出す子や抱きつく子等、安心した姿が見られました。

2泊3日の宿泊保育が終わり、保育園での生活へ戻ってきました。みんなから「おかえりなさい!」と歓迎され、嬉しそうに清里の思い出を話しています。ひとりひとりに清里で何が楽しかったか尋ねると、「長靴が浸水して楽しかった」「み

んなでお風呂に入ったのが楽しかった」「ソフトクリームを食べたこと」「四つ葉のクローバーを見つけたこと」と思い思いの楽しみ方で清里を楽しんでいたことがわかりました。

私自身、初めて宿泊保育の引率をしたため行くまではドキドキしていたのですが、3日間たくさん自然に触れて過ごすことができ、子どもたちとずっと一緒に過ごせたことがとても嬉しかったです。宿泊保育から帰ってきた子どもたちは、また一段と大きく成長したように見えました。自然豊かな場所で水の冷たさや風の心地よさを感じ、虫や草花などに触れて遊ぶことのすばらしさを改めて感じた3日間でした。

そして、今回3年ぶりに宿泊保育に行くことができ、誰も体調を崩すことなく無事に過ごし、そして無事に帰ってくる事ができ、本当に良かったと思います。神さまがずっと見ていてくださり、そして守ってくださっていたことに感謝し、また日々の生活を丁寧で過ごしていきたいと思えます。

賛助金・寄付金

ありがとうございました

クリスマス賛助金・臨時寄附

青木清子、赤石三三子、縣洋一、秋津教會、朝倉康仁、浅野美佐子、浅野康子、浅野容子、浅見寛、阿原弘、阿部志郎、新井よう子、安東優、安里美代子、飯田瑞穂、飯塚光喜、五十嵐敏子、石垣茂夫、石塚久江・八重、市橋みはる、伊藤隆史、井上京子、井樋佳子、今井佳代、今井直子、今仲幸雄、岩崎祐子、岩波久一、上杉洋子、上田貞、上野貢一、上前至、大木鈴子、大澤真理子、大竹雪子、大槻圭史、大浜亜紀、大柳龍一郎、岡崎信治、小田静子、小山内佳子、加藤明彦、加藤順、加藤美都子、加藤裕一、加藤由美子、金室武子、金田健一、樺澤幸雄、上石和家子、川口博司、岸根壽明、北林康、木下真由美、久保川守、黒川裕子、桑原亜子、桑山善右衛門、小谷志保、小西美智子、小林充子、小原洋一、近藤浩子、斎藤恵美子、佐賀昭子、坂巻隆男、佐々木佳名子、佐治真理子、佐藤つくほ、佐藤

千郎・充子、篠川栄一、柴田豊子、柴山操、渋谷弥一、姉妹会、清水真理、霜越仰、神代英理、菅宮泰代、鈴木泉、鈴木健司、鈴木直子、関本郁子、瀬戸真知子、高木千賀子、田口摩那、竹内拓、竹森陽子、田澤文雄、立野陽、田村和子、金はぬる、鄭娜暗美、土屋周平、坪野吉孝・あや、富島裕史、中村良子、西貝京子、西端静、ノリシマアキ子、萩原永子、長谷川寿美子、畠山重信、原和喜、原ゆみ、原田裕子、水川英俊、平井正子、平山嘉繁、深田光代、福本和代、藤木謙一、藤田純子、藤田雅子、藤巻和司、藤巻恵子、藤巻契司、藤原由美子、古田土直寿、保科光紀、堀越教子、牧内勝・正子、松下光雄、三浦恒美、三上典男、宮崎康久、宗形友子、村田充子、初井道誉、森史子、森眞弓、森田富美子、八重樫眞理子、柳谷知之、山上洋子、山田真規子、山内友恵、山本洋子、ヤマワキユウコ、余郷志津子、横田碩子、吉田実生、吉田眞、吉永直子、脇坂ゆかり、渡辺きぬよ、渡辺進、大洲幼稚園、関西学院宗宗教活動委員会、峡南幼稚園、頌栄女子学院、聖学院

小学校、東北学院、東洋英和女学院小学部、東洋英和女学院中学部高等部母の会、日本聾話学校、フェリス女学院中学校・高等学校、普連土学園中学校・高等学校、宗教委員会、武庫川幼稚園、横浜共立学園中学校・高等学校、日本基督教団・阿佐ヶ谷教会、大泉教会、鎌倉教会、鎌倉雪ノ下教会、上富坂教会、軽井沢追分教会、小金教会婦人会、小群教会、佐倉教会、清水ヶ丘教会、信州教会、新津田沼教会、逗子教会、仙台青葉荘教会、代田教会、東村山教会、ひばりが丘教会、広尾教会、松戸教会、水戸中央教会、門司教会婦人会、大和キリスト教会支援委員会、霊南坂教会、渡島福島教会

(敬称略 以上本部扱い)

2月17日

クリスマス献金

佐野雅子、倉岡珠江、浴本明榮、荒川恵美子、徳武美和子、長田さやか、船津節子、鶴田淑子、伏木喬子、定冢明子、富室磨致子、澤村幸子、近江優子、西辻郁之、田中富美江、伊牟田克子
(敬称略 姉妹会扱い) 2月20日

かいた婦人の村建替え寄附

愛隣園、アオヤギシズコ、赤山孝子、
浅野康子、天羽道子、飯塚光喜、池田直
子、伊藤瑞男、伊藤百合子、今井直子、
植木道子、上前至、大木カズエ、大竹信
義、大伴栄子、大沼昭彦、大沼チホ、小
川幸子、小川都代、加藤聡一郎、金澤朋
広、神山知徳、河内昌代、菊地篤子、岸
川洋治・陽子、久保田泉、熊田てる子、
胡桃澤伸、桑原亜子、斉藤恵美子、酒井
忍、坂本州子、櫻庭歌子、さくら・市民
ネットワーク、重松啓三郎、菅野真知子、
杉田寛子、鈴木淳司、芹澤利奈、高田由
利美、高野香子、高橋優美子、但野明子、
玉置千鶴子、徳武美和子、徳永端子、富
室磨致子、新倉美佐子、貫井大輔、橋本
一人、濱田美恵子、東島昌子、藤巻和司、
藤巻契司、藤巻ひとみ、細井陽子、真下
弥生、眞山智恵子、水野佳子、村木太郎、
村田英彦、森口茂、山本正恵、山本洋子、
峡南幼稚園、自由学園南沢会、女子学院
日本聾話学校、稚内ひかり幼稚園・きら
きら保育園、日本基督教団・阿佐谷東教
会、芦屋西教会、大磯教会、大船教会、

笠岡教会、上富坂教会、北千住教会、行
田教会、経堂北教会、久ヶ原教会、久米
田教会、群馬町教会婦人会、交野教会、
小倉徳力教会、堺教会、三軒茶屋教会、
静岡草深教会、シャロンのばら教会、新
丸子教会、須賀川教会、田浦教会、辻堂
教会、田園江田教会、十日町教会、遠野
教会、長岡教会、長野教会婦人会、西新
井教会、西千葉教会、野田教会、八王子
栄光教会、原宿教会、原町教会、蕃山教
会、東所沢教会、東村山教会、松代教会、
松山番町教会、三田教会、四街道教会、
和戸教会

(敬称略 本部扱い)

2月20日

3月11日 定礎式

利用者、職員、法人理事、
協力団体や地域の方々、建
設に関わる業者や設計の
方々などにお集まりいた
だき、みんなで工事の安全
と無事に建物が完成する
ようにお祈りしました。



参列者全員で砂かけ



陶器の器に、「新棟の礎となる聖句」と参列者全員の名前を書いた巻紙を入れて大地に埋めました。

おしらせ

★ 訃報

小川都代姉の祈りの友・浴本泰子姉が十月十日に召天されました。長い間のお支えを心から感謝し、ご家族の方々の上に天父の深い慰めと平安をお祈りいたします。尚、ご主人の浴本明榮様から、「祈りの友」を引き継いでくださるとのお申し出をいただきました。感謝！

★ 理事会報告

第243回 12月15日

於法人本部（テレビ会議と併用）

【報告】 第一号業務執行理事報告の件

【審議】 第一号 かにた婦人の村施設建替え事業の件（入札実施案について）

第二号 2022年度第二次補正予算の件

理事・監事全員の賛成で原案通り議決。

第244回 2月9日決議の省略による議決

【審議】 第一号 かにた婦人の村施設建替

えの件（入札実施要項、予定価格並びに最低価格等）

第二号 次回理事会開催の件

理事・監事全員の賛成で原案通り議決。

第245回 2月27日

於法人本部（テレビ会議と併用）

【報告】 第一号 入札結果

第二号 建替え事業資金借り入れについての経過

【審議】 第一号 かにた婦人の村建替え事業に関する第3回入札実施並びに工事契約に関する件

第二号 福祉医療機構からの建設資金借り入れの件

第三号 次回理事会開催の件

理事・監事全員の賛成で原案通り議決。

編集後記

主の大きいなる御名を讚美いたします。

皆様からお寄せ頂きました沢山のご支援を心より感謝致します。またかにた婦人の村建替え事業へのご寄付も沢山お寄せ

頂きましたことを、併せて深く感謝申し上げます。

現在建替えに向けて準備を進めております。建築資材高騰などによる新たな困難もございますが、引き続き支援を必要としている多くの利用者のために、安全かつ心休まる施設が完成致しますことを、共に祈りに覚えて頂きお支え頂けますよう、重ねてお願い申し上げます。

皆様の上に主の恵みと平安をお祈りいたします。（大沼）

2023年3月20日発行（年3回）

発行人 大沼昭彦

編集人 村田英彦

印刷所 (株)印刷センター

発行所

〒178-0006

東京都練馬区大泉学園町7-17-30

社会福祉法人ベテスタ奉仕女母の家

電話 03-3924-2238

<https://www.bethesda-dmh.org/>

振替口座 00190021138164